

【活用にあたって】

今回は発問内容から国語科・社会科を対象として挙げました。四季折々の風物を愛でる日本の生活習慣は日本の文化の一つであり、こうした小さな記事からもその良さが感じ取れます。中学における道徳でも「日本の良さ」が強調されていますが、1時間の授業でなくとも、こうした記事を活用することで多様な学びが短い時間でできると思います。

また、見出しの文字から和歌へ、和歌から作者へ、関連する場所へと発想を飛ばして学びを深めていくことは、真に今求められている学びといえるのではないのでしょうか。

解答例

問1： ①こち ②ぐうじ ③けいだい

問2： 太宰府天満・子孫・美しさ・肥後国・殿様・止めて

発展①：道真を慕う庭木たち(桜・松・梅)のうち、梅だけはその日一夜のうちに主人の暮らす太宰府に飛んで行き、その地に降り立ったから。

発展②：和歌：東風吹かばにほいをこせよ梅の花

主なしとて春な忘れそ(春を忘るな)・・・2通りあるとされています

意味：春風が吹いたら、香りをその風に託して、

太宰府まで送り届けてくれ、梅の花よ。

主人である私がないからといって、春を忘れてはならないぞ。

・・・太宰府天満宮ホームページより